

昆虫採集について

上田尚志*

何のために虫を採るのだろうと考えたことが一度だけあった。それは、ふるさとの但馬を離れて、新しい土地に来たときであった。そのとき、自分が意識しているかどうかは別として、やはり目的があるから採るのではないかと思つた。その目的は一人一人異なるにしても、客観的には、たとえば但馬で何ができるかというのは、但馬の自然が抱えている課題と我々の問題意識とで決まると思う。それを単に個人に委ねてしまうのではなく、広く深くしていくのも虫の会の役割の一つだと思う。私は今、但馬の虫を調べていないので、家島での自分なりの課題をまとめ、昆虫採集の目的や虫の会について思うことを書いてみたいと思う。

私が家島に来て、再び昆虫採集を始めたい理由を考えてみると、第一に、家島群島の昆虫はどれも記録していないので、まずリストを作るという課題が明確だったことがあげられる。このことは、自然保護の基礎資料としても必要なことと思つた。第二に、生物の教師として来たからには、家島の自然を知っておくことは一種の義務だと思つたこと、最後に、高校生ではあるが、仲間ができたことも理由の一つにあげられるだろう。とにかく、また昆虫採集がしたくなったことはたしかだ。しかし現在の興味は以前と少しちがっている気がする。家島の自然を時間的にも空間的にも理解したいということがまずあって、その中心に昆虫がある。植物を含めて家島の自然の特徴をつかみ、昆虫を材料に深く調べてみたいと思う。昆虫のリストをまとめたら、そこから家島なりのテーマをみつければ、今のところ、小さな島であるということを活かして、種の分布に関する特徴ある現象のいくつかを、なぜそうなのかという形で追求してみたいと思っている。

ところで、昆虫採集の目的をもう少し考えてみると、二つあると思う。第一は、地域の昆虫の研究のための手段である。これには昆虫のリストを作ることを始めとして様々なテーマが考えられる。そしてこれらの研究課題は地域の自然のなかに存在するものであって、研究の現状を知っていないと、課題として意識することはできない。第二は個人のコレクションの手段である。この場合

は、その人にとっての課題はいつでも明白である。標本箱の中身が課題を決めるといってもよい。いずれの場合も昆虫採集そのものはまったく同じ行為であり、それだけでかなり魅力的なものだ。しかし、いずれにせよ、どんな目的や夢をもてるかということが、昆虫採集を真に魅力あふれるものにするカギだと思う。

さて、昆虫採集を続けるかぎり、人は研究か、コレクションか、どちらかの道を選ぶことになる。（実際には、入り難った気持ちの場合も多いただろうか）コレクターとしての道を進む場合は、地域の研究課題がみつけれないとき、あるいは都市に住んでいて、そういう条件が得にくいときなどに、しかもなお採集の魅力を捨てきれないとき選ぶ道といえないだろうか。もちろん、標本箱に虫を並べることで自体が魅力あることだから、研究のおもしろさがかなり大きくなると、いつでもコレクターに転化する可能性をもっていると思う。

以上のことをふまえて、但馬虫の会は、第一に仲間を作ること、第二に但馬の昆虫研究の現状と課題をだれにでも明確にしておくこと、そういう役割を現に果たしているのだと思う。そのことが単なるコレクターでなく、より多くの広い意味での研究者をつくり出し、自然を守ることに役立つものだと思う。

注、家島群島は家島（本島）、坊勢島、西島、男鹿島を中心に、四十余りの島々からなる。姫路港から約一時間の所にある島である。

